

①プログラムの自己点検・評価結果

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等									
学内からの視点											
プログラムの履修・修得状況		令和7年度は、昨年度に引き続き履修対象を文系・理系を問わない全学開講科目として展開し、昨年度と同様に多くの学生が履修した。今年度は、より多くの学生を受け入れるために同一授業を2回実施する体制を整え、柔軟な受講機会の提供に努めた。最終的に、536名が履修し、単位修得者は490名であった（修得率91%）。今後は履修率のさらなる向上を目指し、入学時の説明資料やシラバスへの記載に加え、ガイダンスでの紹介や学内掲示物の活用など、より多様な手段による積極的なプログラム周知を行っていく。また、ホームページ上でも関連情報に円滑にアクセスできるよう、内容の充実・更新を継続して進めていく予定である。									
学修成果		データサイエンスリテラシーの学修効果については、本学で行われている他の科目と同様に授業評価アンケートを実施し、また毎回の小テストや最終試験などにおいても個々の学生の理解度や学修状況の把握に努めた。授業評価アンケートの結果は以下のとおりであり、新しい知見やものの考え方を修得できたことが確認できた。 問：あなたは、この授業を受けて新しい知見やものの考え方を修得しましたか。 「はい」55%、「どちらかと言えばはい」37%、「どちらとも言えない」5.9%、「どちらかと言えばいいえ」1.7%、「いいえ」0.87%									
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		授業評価アンケートの結果は以下のとおりであった。計99%の学生は理解できており、内容の理解度は問題ないと言える。 問：あなたにとってこの授業の難易度はどの程度でしたか。 「いくら努力しても理解できない程度」0.87%、「かなり努力すれば理解できる程度」14.13%、「努力すれば理解できる程度」43.7%、「少し努力すれば理解できる程度」35.65%、「努力しなくても理解できる程度」5.66%									
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		直接的に後輩等他の学生への推奨度を取得してはいないが、授業評価のコメントなどからも概ね内容に関し好感度の高い講義であることがうかがえる。教室の大きさなどの関係から基本的に1年生科目として開講しているが、1年時に履修しなかった学生からも、内容に興味を持ち来年受講が可能かなどの問い合わせも受けている。									
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		令和7年度も全ての学群との時間割調整を行い、また2回同一内容を開催することで、できる限り多くの学生が履修可能となる開講時間とした。令和7年度においても教職科目などと完全に他の科目との重なりを避けることができなかったが結果としては想定受講学年である1年生だけに限定した場合には84%の履修者となった。また、全体での履修率は56%で履修者数・履修率の向上に向けた計画時の数値を達成することができた（申請時目標値は53%）。									
学外からの視点											
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本教育プログラムで提供する授業科目は1年次配当科目であり、また本プログラムは令和5年度から開始したため、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価に関する自己点検・評価はまだ行えていない。次年度以降、進路や活躍状況の把握・分析に努め、また企業等からの意見を聴取していく。									
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		高知工科大学数理・データサイエンス・AI教育プログラムの核となる、データサイエンスリテラシーの講義を担当する教員を中心となり、講義の一部を担当する産業界の人間であるゲスト講師からの意見聴取をはじめ、令和6年度からは数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムに参加することで、より多くの大学での事例や産業界からの意見を調べることで、プログラム内容や手法に反映している。									
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		講義では、昨年度に引き続き、データサイエンスやAIを利活用している第一線の情報系企業から講師を招き、最新の技術動向や実社会での活用事例を学生とともに考える機会を設けている。また、技術的視点だけでなく経営や社会的インパクトの観点を取り入れるため、大手企業の経営者による特別講義も実施し、学生からは自身の将来像や社会での活用可能性について多様な感想が寄せられた。さらに今年度は、学生が「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」をより実感できるよう、授業内の具体例紹介や短い思考活動の充実を図っている。たとえば、日常生活や社会課題に関わる身近なデータ・AI利用の事例を取り上げ、それらがどのように活かされているかを学生同士で簡単に意見交換する時間を設けることで、学んだ内容を自分の体験や興味と結びつけやすくしている。また、授業中に小テストや簡単な問いかけを通して「自分で理解できた」という実感を得られる場面を増やし、学びへの動機づけを高める工夫も行っている。これらの取り組みにより、単なる知識の受け取りにとどまらず、「自分の生活や将来とつながる学び」であることを学生が自然に感じられる授業運営を目指している。今後も授業評価アンケートや学生の意見を参考に、より主体的な理解を促す授業改善に努めていく。									
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		授業内容や方法、水準、教方に関しては、授業評価アンケート結果をもとに点検・評価し、改善に努めている。加えて、学生から授業ごとに記述式アンケートをとるなどにより、授業改善を継続的に行っていく。一方で、より意欲のある学生に対して追加的な課題を出すなど、学びに対する要求にも応えられる内容としていく。 令和7年度には講義内容としてExcelで行っていたデータ分析入門に対し、Pythonでも実施可能とするオプションを設けたことで、より意欲のある学生はそちらを選び自己学習を進める講義内容へと改善している。									

②履修者・修了者の実績 ※学生数は令和7年5月1日現在

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和6年度		令和7年度		履修者数合計	履修率 履修者数/収容定員
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
システム工学群	764	170	680	120	114	36	35	123	112	279	41%
理工学群	406	100	380	15	11	41	34	127	113	183	48%
情報学群	434	100	400	108	93	108	101	97	90	313	78%
データ＆イノベーション学群	129	60	120			62	62	67	64	129	108%
経済・マネジメント学群	707	160	640	118	108	102	97	122	111	342	53%
合 計	2,440	590	2,220	361	326	349	329	536	490	1,246	56%